昭和60年前後、
日本語教育学会
文部省
動向資料

財団法人 言語文化研究所
附属 東京日本語学校
〒150 東京都渋谷区南平台町16番26号 TEL. 03-3463-7261 FAX. 03-3463-7599

The Institute for Research in Linguistic Culture
The Tokyo School of the Japanese Language
16-26 Nampeidai-machi, Shibuya-ku, Tokyo 150, Japan
Phone: 03-3463-7261 Facsimile: 03-3463-7599

日本語教育関係諸機関一覧表

機関名	所在地	電話番号	備考
亜細亜大学	武蔵野市境1243	(0422) 5-4552	留学生別科
大阪外語大学	大阪市天王寺区上本町8	大阪(771) 4651	〃
海外技術協力難団	新宿区市谷本村42	(353) 2171	
海外技術者研修協会	文京区駒込富士前町42-2	(981) 4111	
	横浜市磯子区,洋光台3-4-1	横浜(75) 6241	横浜センター
	吹田市,津雲台3-20-14	山田局 (06)(878) 0581	関西センター
京都日本語学校	京都市上京区一条通室町西入3	京都 (45) 3356	
慶応義塾大学	港区芝三田2-2	(451) 5181	国際センター
国際学友会	新宿区柏木4-895	(371) 7268	
国際キリスト教大学	三鷹市大沢1500	(0422) 3-3131	日本語科
聖フランシスコ修道院	港区麻布三河台町28	(402) 6957	
上智大学	千代田区紀尾井町7	(301) 4301	

B5～2

役員名簿（39.6.25現在）

会長
鳥養利三郎（日本ユネスコ国内委員会委員長・学士院会員）

副会長
伊藤日出登（私立学校振興会常任理事）
~~長沼 直兄（言語文化研究所理事長・東京日本語学校長）~~ 小川芋夫

監事
金沢 謹（国際学友会常務理事）
~~田中 彰（衆議院文教委員会専門員）~~ 遠藤一

理事（48名）
浅野鶴子（東京日本語学校）
麻生達男（亜細亜大学）
岩佐 正（広島大学）
片桐顕智（NHK放送文化研）
釘本久春（東京外国語大学）
小出詞子（国際基督教大学）
斉藤 修一（慶応義塾大）
佐藤喜代治（東北大学）
鈴木 忍（国際学友会）
高橋一夫（東京外国語大学）
戸川敬一（上智大学）
木村宗男（早稲田大学）
林 大（国立国語研究所）
林 米子（京都日本語学校）
はらだたねお（国立教育研究所）
水谷 修（日本研究センター）
山本みち（大阪外国語大学）
池田実（4学大）

評議員（127名）
秋永一枝（早 大）
浅井恵倫（南山大）
阿刀田槙子（東京日本語）
天野一夫（千葉大）
荒張和子（千葉大）
有馬俊子（東外大）
五十嵐三郎（北 大）
池尾スミ（日本研究セ）
池上禎造（京 大）
~~池田 童（千葉大）~~
池田弥三郎（慶 大）
勇 康雄（青山学院大）
石井庄司（教育大）
石黒 修
和泉模久（大阪外大）
伊藤芳照（国際学友会）
伊丹しげ子（慶 大）
乾 亮一（東外大）
井之口有一（京都府大）
今田滋子（ICU）
薄井歳和（千葉大）
江湖山恒明（お茶の水大）
遠藤嘉基（京 大）
遠藤波止（日師連）
大石初太郎（国 研）
大河内孝（松蔭大）
大島正二（早 大）
大塚喜世子（日師連）
大槻信良（千葉大）
恵迫善雄（東洋大）
岡本千万太郎（法政大）
~~荻原 浅男（千葉大）~~
小野敏夫（慶 大）
尾野香一（東外大）
奥津敬一郎（ICU）
奥野信太郎（慶 大）
神鳥武彦（文部省）
亀井 孝（一橋大）
川瀬生郎（国際学友会）
河部利夫（東外大）
川本茂雄（早 大）
河原崎幹夫（国際学友会）
木内信敬（千葉大）
菊池 靖（東海大）
~~喜多 路~~
清岡暎一（慶 大）
金田一春彦（東外大）
窪田富男（東外大）
~~熊沢 竜（教育大）~~
倉持保男（千葉大）
栗原宣子（日師連）
黒田 巍（教育大）
木暮義雄（千葉大）
興水 実（国 研）
小杉商一（国学院大）
小松 光（千葉大）
斉藤健治（国際学友会）
斉藤秀子（東日語セ）
阪倉篤義（京 大）
阪田雪子（国際学友会）
佐藤純一（東 大）
佐藤 孝（名 大）
柴田和子（慶 大）
柴田 武（国 研）
清水 護（ICU）
下瀬川一郎（国際学友会）
白石大二（早 大）
上甲幹一（名 大）
杉本つとむ（早 大）
~~高木 国栄（東京日本語）~~
武宮りえ子
~~田中喜一郎（日比谷高校）~~
田辺正男（国学院大）
辻村敏樹（早 大）
徳永康元（東外大）
富田竹二郎（大外大）
富田 節（京都日本語）
中島文雄（東 大）
仲宗根政善（琉球大）
~~長友 治郎吉（千葉大）~~
中村米男（京都日本語）
生田目弥寿子（国際学友会）
西尾寅弥（国 研）
西田直敏（駒沢大）
~~住都栗 暁（東京日本語セ）~~
野元菊雄（国 研）
~~橋本 孝（慶 大）~~
林 巨樹（青山学院大）
林田 明（千葉大）
~~早野 慎一（東大）~~
~~原 俊之（九 大）~~
百本 元菊雄（神戸日語）
平井昌夫（共立女子大）
~~平賀 貞和（早 大）~~
平松幹夫（慶 大）
平山輝男（都立大）
田村すず子（早 大）
福田良輔（九 大）
藤岡敏登（ハワイ大）
藤原与一（広島大）
~~古川 原（専修大）~~
古川晴風（早 大）
古田 拡（法政大）
星山三郎（日医科大）
~~真木三三子~~
~~松井一郎（NHK）~~
松村 明（東 大）
松本尚家（東外大）
水谷信子（日本研究セ）
三根谷徹（東 大）
宮地 裕（国 研）
宮田幸一（鶴見女大）
向井田ヒサ（拓 大）
森 清（東日本語）
森岡健二（東女大）
矢口 新（~~教育研~~）
山口 正（茨城大）
山崎久之（群 大）
山下信一（NHK）
山田 厳（国 研）
~~山田安宏（ICU）~~
山根和平（慶 大）
ヤン，ジョン（メリランド大）
武藤 潔（九 大）
吉田信子（東外大）
吉武好孝（千葉大）
渡辺 実（京 大）
~~望月 [illegible]（4学大）~~
田中大二（4学大）
吉沢典男（4学）
国松昭（東外）
北城淳子（ICU）
吉田 健夫（阪外）
永倉俊男
武部 （早大）
上野田鶴子（ICU）

コマン
宮田 斉（早大）

富田 隆行（同学）
椎名和男（〃）

コモンから外す
森島 宇

大坪一夫（日研センター）
倉又浩一（東外大）
望月彦逸（4学）
金井英雄（ICU）
岩崎 云（ICU）

太田 朗
永井 道雄
長谷川

日本語教育学会

昭和39年度(39.4.1～40.3.31)予算案

I 収入

項目	金額	積算基準
前年度繰越金	72.262円	
普通会費	240.000	@600円×400人
賛助会費	300.000	@10000円×30社
広告料	24.000	@3000円×2×4回
会場費・他	10.000	研究例会10回
合計	666.262	

普通会員235名

420名　40年度250をキリとする

II 支出

項目		金額	積算基準・その他
機関誌印刷費		320.000	@80.000円×4回
小計		320.000	①
会議費	研究例会	10.000	@1.000円×10回
	理事会	4.000	@1.000×4
	運営委員会	8.000	@1.000×8
	研究委員会	10.000	@1.000×10
	編集委員会	24.000	@1.000×24
	事務局委員会	6.000	@1.000×6
小計		62.000	②
通信連絡費	機関誌郵送費	54.000	@30円×450人×4回
	研究例会通知費	22.500	@5×450×10
	理事会〃	800	@10×20×4
	運営委員会〃	800	@10×10×8
	研究委員会〃	1.500	@10×15×10
	編集委員会〃	3.600	@10×15×24
	事務局委員会〃	600	@10×10×6
小計		83.800	③
事務費	筆墨・用紙・他	20.000	
	アルバイト経費	36.000	@3000円×12ヶ月
	情報宣伝費	40.000	パンフレット印刷・発送・他
	予備費	54.462	
小計		150.462	④
39年度大会費		50.000	
小計		50.000	⑤
合計		666.262	①+②+③+④+⑤

理事会資料 40.6.11

39年度 決算報告 (39.4.1 − 40.3.31)

I 収入

項目	金額	
前年度繰越金	92,262円	
普通会費	142,124	600×231人, 950×2人, 200×1人, 724×1人
賛助会費	10,000	
懇親会費	28,400	400円×71人
会場費	2,600	研究例会 3回
寄付金	46,150	大阪商工会議所 30,000, 早稲田大学 13,000, 到本紙 3000, 他 150
「日本語教育」売上	4,950 (−別250)	
広告料	3,000	日本語教育45号(日本書房)
振替貯金利子	138	
合計	329,424	

差引残高 83,615円 (内5,020円は関西地区で保管)

II 支出

項目		金額	
印刷	日本語教45号	88,300円	仰ぎ84 84ページ 1000部
	会員名簿	20,150	500部
	小計	108,450	①
会議費	理事会	3,540	3回
	運営委員会	8,555	5回
	編集委員会	1,000	
	研究例会 会場費	152	
	小計	13,247	②
39年度大会経費	通信費	3,150	通信用ハガキ代
	文具費	4,227	
	講師謝礼	6,000	3000×2人
	懇親会費	35,480	
	アルバイト謝礼	1,000	
	準備段階食代	4,300	
	諸報費	1,100	
	小計	55,257	③
通信連絡費	名簿発送費	9,950	
	「日本語教育」発送	12,265	
	研究例会	1,855	
	各種委員会	3,250	
	諸連絡費	3,565	
	小計	35,835	④
事務局費	文具費	4,560	
	謝礼	2,000	アルバイト
	交通費	1,520	
	収入印紙	50	
	小計	8,130	⑤
	関西地区研究会	24,980	⑥
合計		245,809	①+②+③+④+⑤+⑥

この辞書の内容

39. 11

1　この辞書は，外国人留学生が日本語を学習する比較的初期に，特に漢字について学習するのに役だつことを念願して編集したものである。

2　この辞書は，＿＿＿字の漢字と，それぞれの漢字を用いて書き表わされることばとについて，よみ方と意味とを解説したものである。

親字の内訳は，次のとおりである。

(1)　当用漢字表の漢字

当用漢字表は，国民の生活能率をあげ，文化水準を高めることを目的として，1946年に日本の政府が決めた。その表に示された1850字を当用漢字という。そのうちに，特に義務教育の期間（小学校6年と中学校3年の9年間）に学習する，いわゆる教育漢字881字が含まれている。

(2)　当用漢字表外の漢字

当用漢字表に採用されなかった漢字も，実際には目にふれる機会がないわけではない。いま，それらの中から＿＿＿字を選んだ。それは，これから生まれる子の名に用いてよいと認められている92字，1954年に国語審議会が検討した当用漢字表の補正案のうち，当用漢字表に新たに加える字とされた28字，その他，地名など社会の各方面で用いられ，それらを読むために必要であると思われるものなどである

3　親字の字体は，当用漢字については，当用漢字字体表（1949年政府決定）による。これと著しく異なった別の字体をもっているものにかぎって，その別の字体を（　）に入れて示してある。

4　見出し語についても，その選び方・並べ方に，いろいろと注意をはらった。

5　親字および見出し語の解説には，つとめてわかりやすい日本語を用い，随所に英語を入れて，理解の助けとした。

6　付録には，次の項目のものをのせ，この辞書をいっそう役だつものとした。

漢字概説
五十音図
筆順の手びき
筆順一覧表
都道府県名
人口10万以上の都市名
鉄道本線名
旧国名

なお，求める漢字を見つけやすくするために，3種の索引をもうけた。

総画索引――それぞれの字の画数によるもの
音訓索引――それぞれの字のよみ方によるもの
字形索引――字形の特徴によるもの

この辞書の組み立て

1　親　字

(1)　当用漢字は，明朝体の活字を用い，〔　〕でかこんである。

(例)　〔北〕

(2)　当用漢字字体表と異なっている字体のおもなものを，（　）でかこんである。

(例)　〔昼〕（晝）
〔機〕（杙）

(3)　当用漢字表外の字は，〖　〗でかこんである。

(例)　〖稀〗

2　親字の配列

(1)　部首とそれぞれの部に属する字については，ほぼ従来の普通の漢和辞書に見られるような順で並べてある。　それは，だいたい「康熙辞典」の配列にならったもので，――の部に分け，その部を部首の画数順にし，その部に属する漢字もまた画数の順にしてある。　また，「相」は「目」の部に属しているが，「木」の部にも次のように示してある。

(例)　〔相〕→　「目」部（　）　　（　）内はページ数

(2)　字体表と異なっている字体は，その画数のところに掲げ，新字体とそのあり場所のページとを，次のように示してある。

(例)　〔區〕→　「区」（　）

(3)　字体表の字体で，もとの字体と著しく異なり，もとの部首におくことが不適当となったものは，便宜上他の部首に移した。たとえば，「万」は，もとの字体は「萬」であり，「艸」の部首に属し

ていたが，便宜上「一」の部に移した。これは，外国人留学生がその漢字の字形からひく便利を考慮したためである。

3　親字の音と訓

(1)　親字の次に，音と訓とが示してある。音は㊐の次に，訓は㊑の次に，ともにひらがなで示してある。当用漢字音訓表の音訓は，すべて掲げる。また，音訓表で一方しか掲げていない音訓のうち，自動詞と他動詞の対応や，形容詞と動詞の対応が許されているものは，それらの対応する訓もの世てある。

(2)　前項以外の音訓は，（　・）に入れて示してある。

(例)

〔交〕　㊐こう
　　㊑まじる，まじわる，まじえる（かわる，かわす）

4　親字の意味

(1)　親字そのものの意味と，それが複合語となったときの意味とを，現代語として用いられているものを中心として説明してある。

(2)　意味が二つ以上あるときは，①，②，③……で分け，はじめに最もよく使われている意味を述べている。英語があったほうがわかりやすいときには，英語がつけてある。

(3)　意味上，対応して用いられる字は，↔の次に示してある。参照すべき字は，→の次に示してある。

(例)　裏↔表　　上→中

(4)　意味の説明の次に，その字を使ったおもな語例（または句例）をあげてある。

(5)　造語成分や，接頭語・接尾語などの役割についての説明は，▷の次に示してある。

5　見出し語について

(1)　親字が1字だけで表わされることばと，親字を初めにもっている語句とを見出し語としてある。

(2)　見出し語に，さらに「する」がつくことばは，その見出し語のもとで扱ってある。

6　見出し語の並べ方

見出し語は，原則として，次の順に並べてある。

(1)　親字1字だけで表わされることば

(2)　第2字めが，ひらがなのことば（ひらがなの部分の五十音順）

(3)　第2字めが，漢字の語（第2字の画数順）

(4)　第2字めが同じ場合は，第3字以下を，(2)，(3)の順に準じる。

7　見出し語の表記

(1)　当用漢字表，同音訓表内の字による見出し語は，〔　〕でかこんである。送りがなで省くことを許容されている部分は，（　）でかこんである。

〔組み立てる〕　　〔組(み)立て〕

(2)　当用漢字表外の漢字，同音訓表外のよみ方による見出し語は，〖　〗でかこんである。

〖石垣〗　　〖粒選り〗

(3)　〖　〗でかこんだ見出し語で，言いかえや書きかえの例のあるものは，注の形で示してある。

〖潰乱〗　　（注）壊乱とも書く。

8　見出し語の説明

(1)　よみかたは，見出し語の次にひらがなで示してある。

(2) 品詞の名は，次のように略語で示してある。

名　詞 → (名)　代名詞 → (代)

自動詞 → (自)　他動詞 → (他)

形容詞 → (形)　形容動詞 → (形動)

副　詞 → (副)　連体詞 → (連体)

接続詞 → (接)　接頭語 → (頭)

接尾語 → (尾)

連　語 → (連語)　句 → (句)

ただし，名詞については，原則として (名) は用いず，他の品詞にも用いられるときにかぎって，I (名) …… II (副) …… のように示してある。

(3) 動詞のよみには，活用語尾の部分を示すため，語尾の前に・(なかぐろ) を入れてある。

(例) 〔浮かぶ〕うか・ぶ　〔取り入れる〕とりい・れる

(4) 動詞と形容動詞の活用形は，次のように示し，活用の名称は省略した。

五段活用　(例)「実　る」→ -ら，り，って

「飛　ぶ」→ -ば，び，んで

「押　す」→ -さ，し，して

一段活用　(例)「受ける」→ -け，ける

「着　る」→ さ，きる

サ行変格活用　(例)「熱する」→ -せ，し

「信ずる」→ -ぜ(じ)，じ

「勉強する」→ -さ，し

形容動詞　(例)「急」→ -な，(の)，に

「静か」→ -な，に

「高貴」→ -な，(の)

(5) ことばの意味が二つ以上あるものは，①，②，③ …… で分け，はじめに現在最もよく使われていると思われる意味を述べてある。

(6) 意味上対応することばには，↔ の符号を用い，それ以外に参照すべきことばは，cf. を用いて示す。

(例) 〔収　入〕しゅうにゅう　↔ 支出

〔劇　化〕げきか　cf. 脚色

9 応用語

見出し語を並べたあとに ＊ の印をつけて，親字が第2字め以下に用いられることばを示す。

略語および符号表

(名) — 名　詞	～ …… 省略を示す。
(代) — 代名詞	〃　〃 …… 親字の語例
(自) — 自動詞	(例) …… 見出し語の用例
(他) — 他動詞	
(形) — 形容詞	→ …… 参照字
(形動) — 形容動詞	↔ …… 対応字または対応語
(副) — 副　詞	cf. …… 参照語（対応語を除く。）
(連体) — 連体詞	
(接) — 接続詞	①，② …… 意味のくぎれ
(頭) — 接頭語	I，II …… 品詞の別
(尾) — 接尾語	▷ …… 親字の解説
(連語) — 連　語	
(句) — 句	

索引の使い方

1　本文で漢字を見つけるには，　（「位」の字を例として）

もとめる漢字「位」の部首が「イ」であることを知っていたら，部首索引の中で，2画の「イ」を＿ページにもとめ，「立」の画数5によって＿ページのところに見つける。

2　本文で漢字が見つからないとき，（「幹」の字を例として）

(1)　よみ方がわかっているなら，

ア　音訓索引を用いる。

「幹」の字の音「かん」なり，訓「みき」なりを，音訓索引でもとめると，その漢字が＿ページにあることがわかる。音訓~~索引~~は，五十音順（あいうえおの順）に並べてある。

(2)　よみ方がわからないなら，

ア　字形索引を用いる。

字形索引の中で8画の「草」を＿ページにもとめ，「今」の画数5によって＿ページを見つける。（もとは，「干」の部首の10画）

イ　総画索引を用いる。

「幹」の字の総画数が13画であることによって，総画索引の13画のところを調べると，＿ページにあることがわかる。

注：　字形索引というのは，漢字を従来の部首に所属させるという考えにとらわれず，漢字の構成部分（上・下・左・右の部分）のどの部分からもひけるようにしたものである。

画数の数え方については，総画索引のうえがき＿ページ参照。

昭和40年度

日本語教育研修会開催要項

1 趣旨：外国人のための日本語教育における、日本語および教授方法等の諸問題について、実際的な立場から研究討議を行ない、日本語教育の充実に資する。

2 主催：文部省　外国人のための日本語教育学会

3 期間　昭和40年7月19日（月）～25日（日）　7日間

4 会場　御殿場　国立中央青年の家（静岡県御殿場市中畑）

5 参加者

(イ) 資格　ア）現在、日本語教育にたずさわっている者

イ）将来、日本語教育にたずさわろうとする者

(ロ) 定員　65名

6 研修日程

	8:30～10:00	10:00～12:00	12:00～13:00	13:00～17:00	17:30～21:00
19 月			11:00～ 受付	14:00～ 開講式（講演）その他	外国語の教え方（小川）	懇談会（聴講者全員）
20 火	音声と音声教育（上）（水谷）	日本語教授法について（木村）	自由時間	文法と文法教育（倉持）	研究討議司会（聴講者全員）稲泉
21 水	音声と音声教育（下）（水谷）	語句の説明のしかた（阪田）	自由時間	教材論（浅野）	視聴覚教育について（大村）
22 木	文法と文法教育（阪田）	国語問題の周辺（高橋）	レクリエーション		映画
23 金	語いと文字（木）	文法と文法教育（阪田）	自由時間	学習者の母国語との比較（清水）	（聴講者全員）研究討議司会（水谷）

24 土	テストのあり方（高橋）	教材論（鈴木）	自由時間	文法と文法教育（小出）	懇親会
25 日	会話・話し方の指導 司会（池田）（パネルディスカッション）（四名参加）	閉講式			

注：(1)自由時間は，各自の研究および講師の指導にあてる。
(2)最終日は昼食後現地解散。

7　講義内容と講師　その他（日程順）

外国語の教え方　小川芳男（東京外国語大学）

音声と音韻教育(I)(II)　水谷　修（スタンフォード大学：日本研究センター）

日本語教授法について
視聴覚教材について　木村宗男（早稲田大学）

文法と文法教育
―文法論と文法教育―　倉持保男（千葉大学）

語句の説明のしかた
文法と文法教育
―助詞の扱い方―　坂田雪子（東京外国語大学）

教材論
―教材の配列―　浅野慶子（東京日本語学校）

国語問題の周辺
テストのあり方　高橋一朱（東京外国語大学）

語いと文字　林　大（国立国語研究所）

文法と文法教育
―文体の変化とその整理―　滝田富男（東京外国語大学）

学習者の母国語との比較
教材論　―教材とその活用法―　鈴木　忍（国際学友会）

文法と文法教育
―構文について―　小出詞子（国際基督教大学）

研究討議　（司会）和泉模久（大阪外国語大学）
（司会）水谷　修（スタンフォード大学：日本研究センター）

会話　話し方の指導
（パネルディスカッション）　（司会）池田　重（千葉大学）
岩崎　玄（国際学友会）
任都栗暁（東京日本語センター）
森　清（東京日本語学校）

8　参加申し込み　参加希望者は，別紙のような様式によって，6月10日までに文部省調査局国語課（東京都千代田区霞が関3－4　電話（581）0089）あて申し込む。参加申し込み者には，定員の関係もあるので，選考のうえその結果を通知する。

9　修了証書　全期間の研修を修了した者には，修了証書を授与する。

10　費用　受講料　宿泊費は無料であるが，食事代等の実費は，参加者の負担とする。

（参　考）　参加するにあたっての留意事項

1　参加者は，性別を問わないが，原則として全期間参加するものとする。

2　会場となる国立中央青年の家は，青年または成人団体を対象とし，研修者が共同生活をしながら研究討議やレクリエーションを行なう研修施設である。したがって，この施設の定める次のような生活規則によって団体生活をすることになる。

(1)　生活時間

起　床	6：00
朝のつどい	6：30～6：40
朝　食	7：00～8：00
研　修	8：00～12：00
昼　食	12：00～13：00
自由時間（研究・運動）	13：00～15：00
研　修	15：00～17：00
夕べのつどい	17：00～17：10
夕食・入浴	17：10～19：30
研　修	19：30～21：00
消　燈	22：00

(2)　起床，食事，入浴，消燈等の決められた時間は，よく守る。

(3) 清潔・整とんに各自気をつけ，自主的に清掃を行なう。

(4) 室内・室外を問わず，灰ざらのある場所以外では喫煙しない。

(5) 期間中は禁酒。

(6) 食堂はセルフサービス（食事は原則として3食とも米飯である。）

(7) その他

ア） 宿舎は，ベッド式である。

イ） 携行品……ねまき，上ばき，運動ぐつ，その他日用品。
軽い運動ができる服装も。

3 受講料・宿泊費は無料であるが，食事代（1日3食250円）シーツ等の洗たく代等の実費を会場の受付で納入する。

4 会場までの交通費は，往復とも自弁。

5 申込書は，別紙のような様式であれば，どんな用紙でもよい。おもてに住所氏名を書き，10円切手をはった封筒を添える。郵送の場合は，6月10日までに到着するよう，期限厳守すること。

文調国第　257　号
昭和40年12月10日

浅野鶴子　殿

文部省調査局長
蒲　生　芳　郎

日本語教育の調査研究について（依頼）

外国人に対する日本語教育については，かねてから格別のご配慮を賜わり，まことにありがとうございます。

さて今年度も，別紙により具体的な諸問題について検討を進めたいと存じますので，よろしくご協力をお願いいたします。

なお，承諾書をおりかえしご送付ください。所属長には別途ご依頼いたしました。

（承諾書様式・本人）

年　月　日

文部省調査局長　殿

住　所

氏　名　　印

日本語教育の調査研究について（回答）

昭和40年12月10日文調国第257号によってご依頼の標記のことは，承諾します。

日本語教育の調査研究について

昭和40年12月10日
文部事務次官決裁

1　目的

外国人留学生および一般外国人に対する日本語教育の充実を図るため，当面する諸問題について具体的に調査研究を行なう。

2　調査研究事項

(1)　日本語教育における教材等の作成について

(2)　日本語教授者の研修方法等について

(3)　その他

3　調査研究方法

日本語教育の学識経験者の協力を求め，前項について調査研究する。

会議開催　予定回数　2～3回

（昭和41年3月まで）

4　協力者

別紙　：　12名

浅野鶴子	東京日本語学校長
麻生達男	亜細亜大学教授
池田重	千葉大学教授
和泉模久	大阪外国語大学講師
木村宗男	早稲田大学語学教育研究所員
釘本久春	東京外国語大学教授
小出詞子	国際基督教大学助教授
斎藤修一	慶応義塾大学講師
鈴木忍	国際学友会日本語学校副校長
高橋一夫	東京外国語大学教授
戸川敬一	上智大学教授
林大	国立国語研究所第1研究部長

文調国第169号
昭和40年8月18日

浅野鶴子殿

文部省調査局長
蒲生芳郎

外国人留学生のための辞典編集について（通知）

下記によって、基本語用例辞典の編集会議（第4回）を開きますから、ご出席ください。

記

日時　昭和40年8月20日（金）
　　午後2時～5時
場所　教育会館第4会議室
議題　1. 採録用語の選定について
　　2. その他

文調国169号
昭和40年8月25日

浅野鶴子殿

文部省調査局長
蒲生芳郎

外国人留学生のための辞典編集について（通知）

下記によって基本語用例辞典の編集会議（第5回）を開きますから、ご出席ください。

記

日時　昭和40年8月30日（月）
　　午後2時～5時
場所　教育会館第5会議室
議題　1. 採録用語の選定について
　　2. その他

第四回　日本語教育学会大会実施計画

○ 日　時　昭和40年6月26日〔土〕午後1.00 — 8.00

○ 場　所　厚生年金会館6階会議室
新宿区番衆町　〔351〕1111

○ 役員及び係その他

大会委員長　鈴木忍氏　（　　）

会計責任者　~~宮田~~伊藤(国)　（　　）

学会事務局者　森田(国)

付〔各2名〕

A〔学会賞〕　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

B〔〃〕　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

C〔〃〕　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

D〔懇親会〕　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

E〔来賓係〕　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

旧評議員会

進行係　読の　〔　　〕

議　長　阪田　〔　　〕

報　告　~~鈴~~金子　〔　　〕　議　事　宮崎　〔　　〕

新、会員総会

進行係　小出　〔　　〕

議　長　林　〔　　〕　副議長　＿＿＿〔　　〕

報　告　~~宮崎~~金子　〔　　〕

評議員会の決議に関する件　~~宮崎~~金子　〔　　〕

旧評議員会　決算報告
終会計報告
新評議員会ー総会

理事、会長の選出

会費千円にすること

公開講演会　司　会　~~木村~~池田　〔　　〕

1 挨　拶　金沢

2　＿＿＿〔　　〕

3　＿＿＿〔　　〕

4 シンポジューム

「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」

司　会　＿＿＿〔　　〕

提案者1　＿＿＿〔　　〕

2　＿＿＿〔　　〕

3　＿＿＿〔　　〕

閉会の辞　木村　〔　　〕

会場設営　宮田(国)

記録係　小松　〔　　〕，荒張　〔　　〕

録音係　水谷　〔　　〕，森田　〔　　〕

懇親会　受　付　＿＿＿〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

司会・進行　~~水谷~~木村　〔　　〕，＿＿＿〔　　〕

○ 評議員会内容

報告事項

決議事項

○ 会員総会内容

報告事項Ⅰ

報告事項Ⅱ（決議事項）

40.4.12

昭和40年度

日本語教育研修会開催要項（案）

1　趣旨　外国人のための日本語教育における，日本語および教授方法等の諸問題について，実際的な立場から研究討議を行ない，日本語教育の充実に資する。

2　主催　文部省　　外国人のための日本語教育学会

3　期間　昭和40年7月19日(月)～25日(日)　7日間

4　会場　御殿場　国立中央青年の家（静岡県御殿場市中畑）

5　参加者

(1) 資格　ア）現在，日本語教育にたずさわっている者

イ）将来，日本語教育にたずさわろうとする者

(2) 定員　65名

6　研修日程

	8:00～10:00	10:00～12:00	13:00～15:00	15:00～17:00	19:30～21:00
19 月		11:00～受付	14:00～自己紹介，問題式，その他	~~講演~~	懇談会 自己紹介
20 火	~~日本語~~ 音声（I）（と音声教育）（水谷）	教授法について 木村	自由時間	文法と教育（I）（倉持）	研究討議（司会 林）
21 水	~~日本語~~ 音声と聴覚（II）	語句の説明（阪田）	自由時間	教材の論（鈴木）（倉持）	視聴覚教育について 映画
22 木	文法教育（阪田）（II）	国語問題（宮治）	レクリエーション（山口）	学習者の母国語との比較（鈴木）（司会 水谷）	研究討議
23 金	誤りと文字教育（林）	文法教育（宮田）（III）	自由時間		
24 土	テストのあり方（宮治）	教材論（鈴木）（IV）	自由時間	文法教育（小出）（V）	懇親会
25 日	会話・話し方の指導（司会・池田）（パネルディスカッション）	閉講式			

注：自由時間は，各自の研究，連絡のためであり，最終日は昼食後現地解散

7　講義内容と講師　その他（日程順）

~~講演~~（外国語の考え方について）	来　定（外大 学長 小川教授）
~~日本語の音声と聴覚~~ 日本語教授法と音声教育	水谷　修（日本研究センター）
教授法について 視聴覚教育について	木村宗男（早稲田大学）
文法と文法教育	倉持保男（千葉大学）
語句の説明の仕方	阪田雪子（東京外国語大学）
教材論（配列）の	浅野鶴子（東京日本語学校）
国語問題 テストのあり方	高橋一夫（東京外国語大学）

語いと文字教育	林　大（国立国語研究所）	
文法教育（Ⅲ）文体の変化とその整理	窪田富男（東京外国語大学）	
学習者の母国語との比較による教材論（Ⅱ）と その活用法	鈴木　忍（国際学友会）	
文法教育（Ⅳ）様式について	小出詞子（国際基督教大学）	
研究討議	（司会）和泉復久（大阪外国語大学） （〃）水谷　修	
会話・話し方の指導（パネルディスカッション）	（司会）池田　重（千葉大学）	
	岩崎　玄（国際学友会）	
	任都栄　曉（東京日本語センター）	
	森　清（東京日本語学校）	

8　参加申し込み　参加希望者は，別紙のような様式によって，5月　日までに文部省調査局国語課（東京都千代田区霞が関3ー2　電話（581）0089）あて申し込む。参加申込者には，定員の関係もあるので，選考のうえその結果を通知する。

9　修了証書　全期間の研修を修了した者には，修了証書を授与する。

11　費用　受講料・宿泊費は無料であるが，食事代等の実費は，参加者の負担とする。
1日250円 政府代表

講義要項と教材
6/10
2日分以内

小田急一中殿場
8.

(13.14.15. I.C.U)

昭和40年度

日本語教育研修会開催要項

1　趣旨　外国人のための日本語教育における，日本語および教授方法等の諸問題について，実際的な立場から研究討議を行ない，日本語教育の充実に資する。

2　主催　文部省　　外国人のための日本語教育学会

3　期間　昭和40年7月19日（月）～25日（日）　7日間

4　会場　御殿場　国立中央青年の家（静岡県御殿場市中畑）

5　参加者

(1)　資格　ア）　現在，日本語教育にたずさわっている者

イ）　将来，日本語教育にたずさわろうとする者

(2)　定員　65名

6　研修日程

	8:30～10:00	10:30～12:00	13:00～15:00	15:00～17:00	18:30～21:00
19 月		11:00～受付	14:00～学習法（学習法研究会）	外国語の教え方（小川）	懇談会（研究会員）
20 火	音声と音声教育（I）（水谷）	日本語教授法について（木村）	自由時間	文法と文法教育（倉持）	研究討議司会（和泉）
21 水	音声と音声教育（II）（水谷）	語句の説明のしかた（阪田）	自由時間	教材論（浅野）	視聴覚教材について（木村）
22 木	文法と文法教育（阪田）	国語問題の周辺（尾崎）	レクリエーション		映画
23 金	語いと文字（林）	文法と文法教育（阪田）	自由時間	学習者の母国語との比較（鈴木）	研究討議司会（水谷）（研究会員）

24 土	テストのあり方（高橋）	教材論（鈴木）	自由時間	文法と文法教育（小出）	懇親会
25 日	会話　話し方の指導　司会（池田）（パネルディスカッション）（90分）	閉講式			

注：(1)自由時間は，各自の研究および講師の指導にあてる。
(2)最終日は星食観測を計画。

7　講義内容と講師　その他（日程順）

外国語の教え方　　小川芳男（東京外国語大学）

音声と音声教育(I)(II)　　水谷　修（スタンフォード大学；日本研究センター）

日本語教授法について
視聴覚教材について　　木村宗男（早稲田大学）

文法と文法教育
－文法論と文法教育－　　倉持保男（千葉大学）

語句の説明のしかた
文法と文法教育
－助詞の扱い方－　　坂田雪子（東京外国語大学）

教材論
－教材の配列－　　浅野鶴子（東京日本語学校）

国語問題の周辺
テストのあり方　　高橋一夫（東京外国語大学）

語いと文字　　林　大（国立国語研究所）

文法と文法教育
－文体の変化とその整理－　　久田富男（東京外国語大学）

学習者の母国語との比較
教材論　－教材とその活用法－　　鈴木　忍（国際学友会）

文法と文法教育
－構文について－　　小出詞子（国際基督教大学）

研究討議　（司会）　和泉模久（大阪外国語大学）
（司会）　水谷　修（スタンフォード大学；日本研究センター）

会話　話し方の指導
（パネルディスカッション）　（司会）　池田　重（千葉大学）
岩崎　玄（国際学友会）
任都栗暁（東京日本語センター）
森　清（東京日本語学校）

8　参加申し込み　参加希望者は，別紙のような様式によって，6月10日までに文部省調査局国語課（東京都千代田区霞が関3－4　電話 (581) 0089）あて申し込む。参加申し込み者には，定員の関係もあるので，選[illegible]えその結果を通知する。

9　修了証書　全期[illegible]研修を修了した者には，修了証書を授与する。

10　費用　受講料[illegible]費は無料であるが，食事代等の実費は，参加者の負担とす[illegible]